くるべ古代歴史館開館記念展

壬申の乱ゆかりの地
～吉野・宮滝～

東上空から見た宮滝遺跡　奈良県立橿原考古学研究所

平成30年3月25日(日)～平成30年5月13日(日)

久留倍官衙遺跡公園

くるべ古代歴史館

〒510-8034　四日市市大矢知町2323-1　TEL059-365-2277

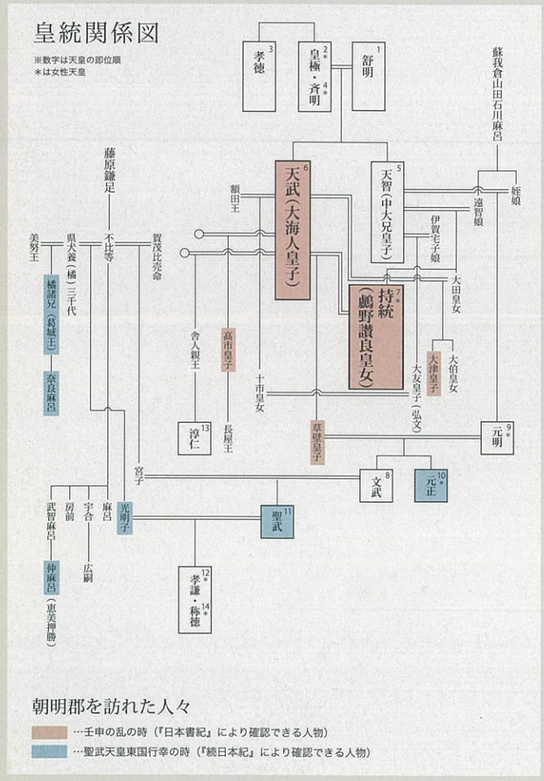
壬申の乱と吉野・宮滝

『日本書紀』によると、天智天皇10（671）年10月、後に天武天皇となる大海人皇子は天智天皇が位を譲ろうというのを辞して出家し、大津宮から吉野宮（大海人皇子の母斉明天皇が斉明2（656）年に造営した離宮）へと入りました。そして翌天武天皇元（672）年6月24日、近江朝廷側が挙兵の準備をしているとの報を受け、吉野宮を鸕野讃良皇女（後の持統天皇）、草壁皇子らと共に脱出し挙兵します。

古代最大の内乱、壬申の乱の勃発です。

大海人皇子は伊賀を経て、鈴鹿を越え、三重郡（現在の四日市市南部）にたどり着き、朝明郡（現在の四日市市北部）の迹太川の辺りで天照大神を望拝します。朝明郡に入ると、大津皇子が合流し、不破を固めたことなどの吉報が入ったことが『日本書紀』に記されています。

この時の起点となった吉野宮こそが、奈良県吉野町の宮滝遺跡と考えられています。



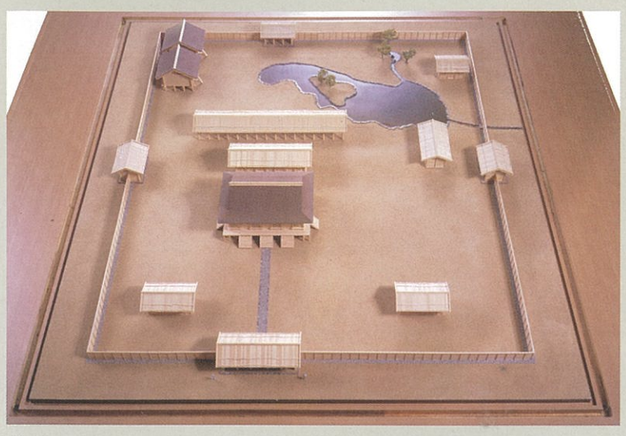
宮滝遺跡

宮滝遺跡は、奈良県吉野町宮滝に所在する縄文時代～中世に及ぶ複合遺跡です。

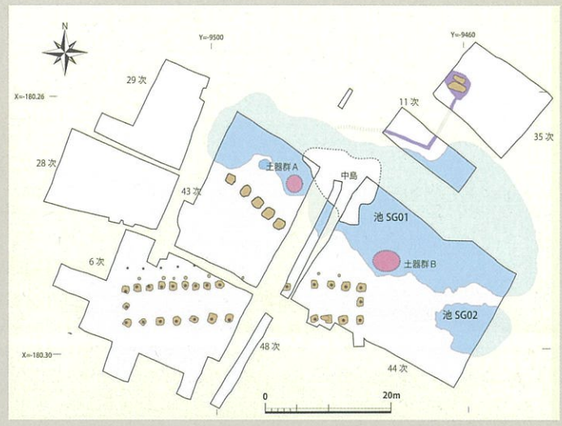
昭和5～13年にかけて、考古学者末永雅雄氏によって断続的に発掘調査が行われてきたところです。

飛鳥時代から奈良時代にかけての遺構や遺物が発見され、飛鳥時代の吉野宮や聖武天皇の吉野離宮であることが分かりました。

その際には、聖武天皇の吉野離宮に比定される石敷遺構の調査は進みましたが、飛鳥時代の遺跡の広がりが明らかになるのは、昭和50年から実施された範囲確認調査を待つことになります。



持統天皇の頃の吉野宮推定復元模型　吉野町教育委員会



宮滝遺跡遺構図　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

飛鳥時代の遺構や遺物は、今回紹介する飛鳥時代の庭園の池である園池遺構とその周辺に集中しています。この場所は、宮滝遺跡の立地する河岸段丘では唯一の湧水地で、池はそういう場所を選んで造られています。池は東西50m・南北20mの不定形で、中心に中島状の高まりを設け、北側から池へ給水するための施設が確認されています。池からは多量の土器が中島を東西に挟んだ2か所に分かれて投棄された状態で発見されています。池の南側には、1m以上もある大きな穴が並んでいたり、真北方向に方位をとる掘立柱列などの遺構が確認されています。掘立柱列は東西37m・南北5mという長大な規模のものですが、柱の間隔がまばらであることから屋根のある建物ではない可能性も考えられています。

具体的な出土資料の時期は、池の西側でまとまって発見された土器が7世紀中ごろから7世紀後半にかけてのもので、給水施設から水を流すために用いられた土管も見つかっています。一方、東側でまとまって発見された土器は、7世紀末から8世紀前半の中ごろにかけての供膳具を中心とする資料です。

以上のような遺跡の状況から、斉明朝・天武朝・持統朝の中心施設であった可能性が高く、天武・持統朝の時期の土器が圧倒的に多く、壬申の乱以前に大海人皇子が出家して入った「吉野宮」にも比定されているところです。

飛鳥時代の池に投棄された土器　奈良県立橿原考古学研究所

池の西側から発見された土器（7世紀中ごろ～後半）
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

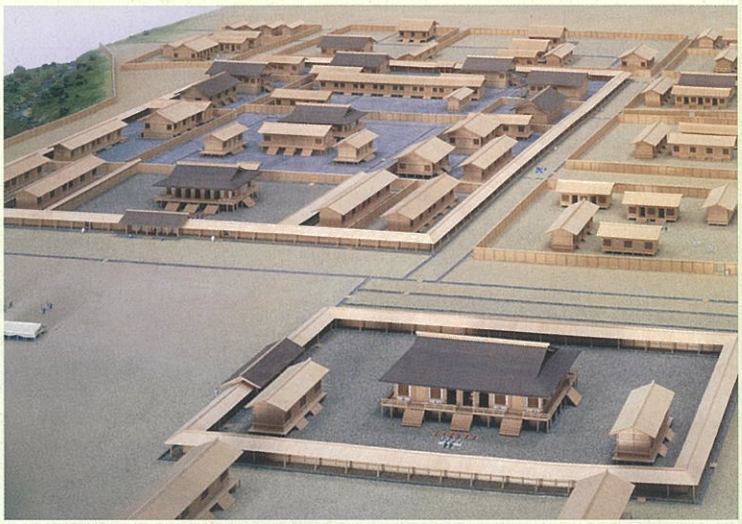
池の東側から発見された土器（7世紀末～8世紀前半の中ごろ）
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

天武天皇の目指した律令国家

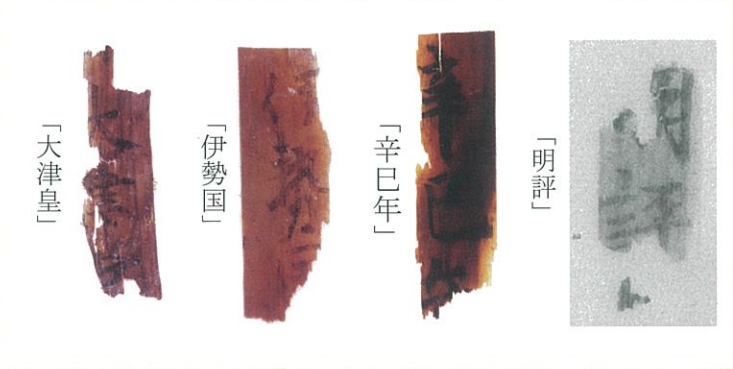
戦いに勝利した大海人皇子は、翌天武2（673）年、天武天皇として飛鳥浄御原宮（あすかきよみはらのみや）で即位し、律令による中央集権国家の建設を目指します。また、『日本書紀』によると、天武10（681）年には歴史書の編纂事業を開始したことが知られます。

さて、飛鳥宮跡（飛鳥浄御原宮）の東端の落ち込みから多量の木簡の削り屑が発見されており、歴史書の編纂を命じた「辛巳年」（681年）と記された木簡が5枚含まれていました。そのほか、「明評」（朝明郡）、「伊勢国」、「近淡海」（近江）、「大津皇」（大津皇子）、「大友」（大友皇子）、「太来」（大伯皇女）などといった壬申の乱に関わる地名や人物名が含まれていました。

これらの木簡は、歴史書の編纂が「壬申の乱」に関わる部分から手が付けられたものと考えられており、『日本書紀』の原形となる歴史書の編纂が壬申の乱から着手されたことが知られます。



飛鳥浄御原宮模型　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



飛鳥宮跡（飛鳥浄御原宮）から発見された木簡
奈良県立橿原考古学研究所

天武・持統天皇の行幸

その後、天武・持統天皇は、吉野への行幸を幾度も重ねています。とりわけ、天武天皇8（679）5月の行幸は草壁皇子を皇嗣として相争わないことを誓わせた「吉野の盟約」として知られています。また、持統天皇は31回もの行幸を重ねています。

春や秋の陽気の良い季節だけでなく、極寒期にもたびたび訪れていることから、風光を愛でるだけではなく、政治と祭祀を実践するために、行幸を重ねたことが指摘されています。

●お世話になった方々

奈良県立橿原考古学研究所　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　吉野町教育委員会
四日市市立大矢知興譲小学校　四日市市立博物館
卜部行弘　坂靖　中東洋行（順不同・敬称略）

●本展覧会の企画およびリーフレットの作成は川崎志乃が担当しました。

久留倍官衙遺跡公園
くるべ古代歴史館開館記念展
壬申の乱ゆかりの地～吉野・宮滝～

会期　平成30年3月25日（日）～平成30年5月13日（日）
主催　四日市市教育委員会
編集　四日市市教育委員会　社会教育課
発行　四日市市教育委員会　平成30年3月25日